

# 新領域におけるブリーフセラピーの活用 —生殖医療の心理支援への展開

人間科学部  
臨床心理学科  
教授

伊藤 弥生



## 研究シーズの紹介

不妊に悩むカップルは多く生殖医療は広く活用されていますが、ストレスも多いことが知られています。晩婚化の一方で、卵巣機能の低下は30代後半から顕著で妊娠は時間との戦いとなっています。心理的困難で不妊治療が進められない場合は重大な不利益となりますが、生殖医療は通院負担自体が重いため、心のケアに割く余裕は厳しい状態にあります。

従来、生殖医療の心理支援は、傾聴型カウンセリングを中

心に時間をかけた支援が行われ、効率性への留意はありませんでした。

生殖医療の心理支援において、短期的・効果的・効率的な臨床サービスを目指す「ブリーフセラピー」は有用と思われるため、ブリーフセラピーの代名詞である解決志向アプローチを軸に、生殖医療における心理支援の実践研究を行っています。



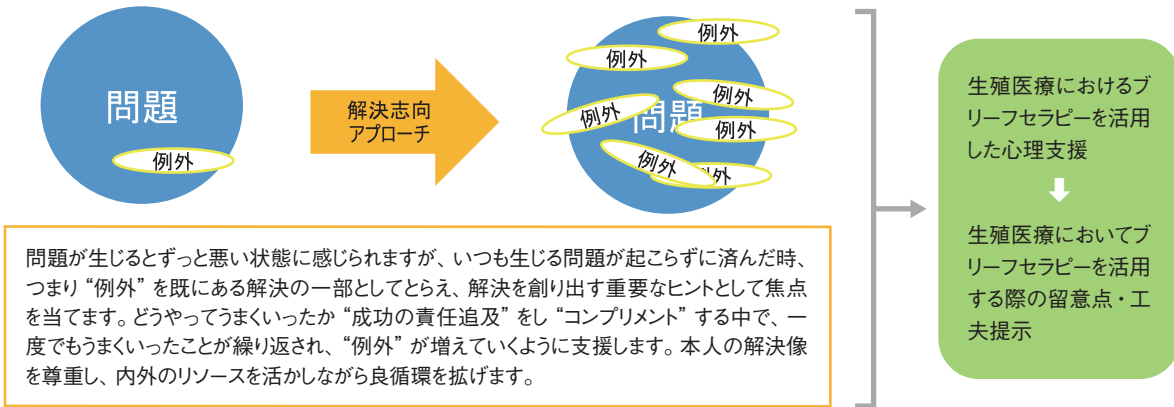
### ブリーフセラピー

- 短期的・効果的・効率的な臨床サービスを目指します。
- 解決志向アプローチはブリーフセラピーの代名詞とされています。



### 解決志向アプローチ

- 問題解決ではなく、解決構築に注力する方が有用であると発想します。
- 本人の解決像とリソースを大事に、例外を増やして良循環を拓げます。



## 期待される活用シーン

● 生殖領域の医療者  
妊娠が時間との戦いになって  
いる患者が、心理的困難で  
不妊治療を進められない



ブリーフセラピーを活用した心理  
支援により患者が早期に心理的  
健康を回復  
➡ 不妊治療の安定的継続



● 悩みを持つ不妊患者  
不妊治療・仕事・家事と多  
忙で、時間をかけてカウンセリ  
ングに通う余裕がない



ブリーフセラピー活用による小数  
回のカウンセリング  
➡ 無理なく通うことができ、  
早期に心理的健康を回復



### その他の研究テーマ

ブリーフセラピーを活用した心理教育の開発  
ブリーフセラピーの発想を活かした教育方法の検討